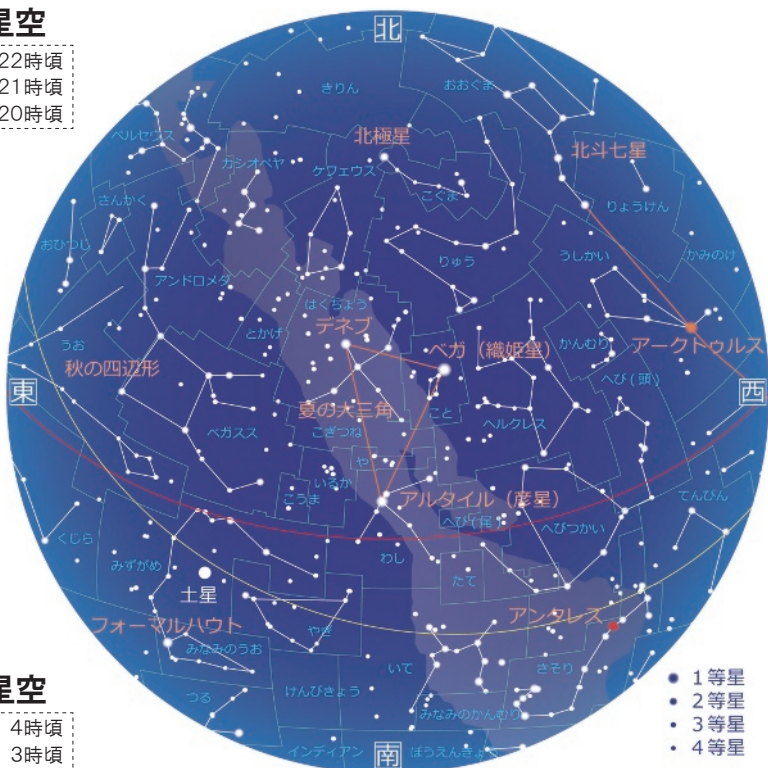


星空ガイド 8月16日～9月15日

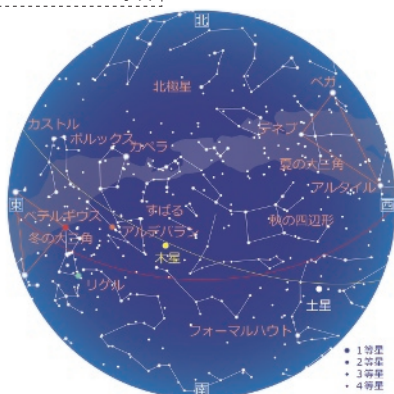
よいの星空

8月16日22時頃
9月1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

8月16日 4時頃
9月1日 3時頃
15日 2時頃



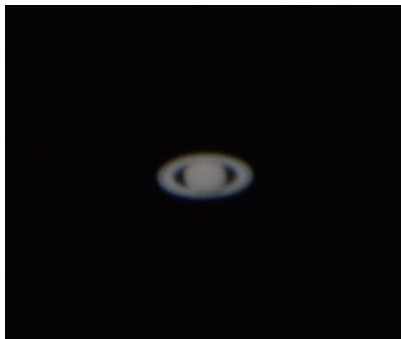
[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
8	16	5:18	18:45	4:45	18:59	29.4
	21	5:22	18:39	9:30	21:02	4.7
	26	5:26	18:33	14:49	--:--	9.7
9	1	5:30	18:25	19:23	6:25	15.7
	6	5:33	18:18	22:09	12:12	20.7
	11	5:38	18:11	1:39	16:30	25.7
	15	5:40	18:06	5:31	18:19	0.1

※惑星は2023年9月1日の位置です。

土星が衝を迎えます

8月27日に土星が衝となり、観察の好機となります。衝とは、惑星が地球をはさんで太陽の反対側の方向にくることをさします。また、衝の頃の土星は、太陽の沈む夕方頃に東の空から顔を出し、明け方に西に沈むまで、一晩中観察することができます。さらに、衝を迎えた土星は地球との距離も近くなり、普段よりさらに明るく見え(0.4等)、その上、見かけの直径(視直径)も大きくなっていて、観察には最適の時期と言えるでしょう。



望遠鏡をお持ちの方はぜひ土星へ向けて、美しい環を観察してみてください。また、当館でも大型の望遠鏡を用いた土星観察のイベントを企画しています。

旧七夕

8月22日(火)は、旧暦の7月7日にあたり、いわゆる旧七夕の日にあたります。これは国立天文台が毎年発表しており、「二十四節気の処暑を含む日かそれよりも前で、処暑に最も近い朔(さく=新月)の瞬間を含む日から数えて7日目」と定められています。今年の場合は8月23日が処暑であり、直前の新月は8月16日。これを含めて7日数えて8月22日が旧七夕というわけです。(そのため旧七夕の日付は毎年違うのです。)

現代でも、旧暦に合わせてイベントを開催することもあります。一方で、新旧暦の日付の差を小さくするため、ひと月ずらした8月7日に行われるものもあります。こういったところにも地域差があって非常に興味深いですね。

加守田 優(学芸補助スタッフ)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
8	16	水	●新月(19時) 月が今年最遠(406,635km)
	19	土	夕空に月と火星がならぶ
	22	火	旧七夕
	23	水	処暑
	24	木	●上弦(19時)
	27	日	土星が衝
	30	水	月と土星がならぶ
	31	木	○満月(11時) 月が最近(357,181km)

月	日	曜	主な天文現象など
9	1	金	二百十日
	4	月	月と木星がならぶ
	6	水	月とすばるがならぶ
	7	木	●下弦(7時)/水星が内合
	8	金	白露
	13	水	月が最遠(406,291km)
	14	木	明空の低空に月と水星がならぶ
	15	金	●新月(11時)